

京都市の子育て世帯における 保育料・保育内容に関する意識調査

調査の概要

【対象者】京都市内に在住する就学前の子どもを養育する保護者

【期間】2021年10月1日～10月31日 【方法】webによるアンケート調査 【有効回答数】165ケース

《子どもの年齢》〔複数回答〕

3歳以上 66% (109人)、3歳未満 52% (85人)、小学生以上 34% (56人)、未就園児 13% (22人)

《在籍している保育施設》

公立保育園 29% (47人)、民間の認可保育園 65% (106人)、認定こども園 2% (4人)、小規模保育事業 2% (3人)、企業主導型保育事業・私立保育園・公立保育所・認可外保育施設 2% (各1人)

《回答者の続柄》

母親 88% (146人)、父親 12% (19人)

《回答者の保育料階層》

第1～第6階層（推定世帯年収330万円未満）16%、第7～第16階層（同640万円未満）33%、第17～22階層 50%

現行の保育料には83%の人が負担に感じており、
1万円上がると「次子を産むのを諦める」「京都市以外に転出する」を考える保護者が約半数

1 現在のところ、京都市から次年度の保育料は発表されていませんが、京都市は「国基準保育料を基本に改定を行います。」としており、独自減免を見直すということでは、最大で国基準まで値上がりすることが想定されます。二人同時入所の際の「はぐくみ額」も見直されることが予想されており、国基準に並んだ場合、多くの階層で1万円前後、最も値上がり幅が高い階層では約4万円の値上がりになります。

現行の保育料については、全ての所得階層において負担を感じており、「とても負担」「まあまあ負担」を合わせると83%にのぼります。また、現行の保育料負担を感じている世帯ほど、国基準にまで上がった場合に負担ができるか不安を感じていることも明らかになりました。

2 保育料を捻出するために、子育て世帯においては様々な生活場面に影響が出ています。食費や医療費などの生活に不可欠な費用や家賃・水光熱費などのライフラインが支出できなかったのは4分の1（特に低保育料階層で高い）が経験しており、子どもの費用が支出できなかった経験は約半数、家族の外出や親の趣味・被服費などが支出できなかったのは約7割、貯金や回答者自身の趣味・被服費などが支出できなかったのは約8割が経験しています。

保育料の値上げにより「次子を産むのを諦める」「京都市以外に転出する」など考える保護者が増える背景として、保育料が子育て世帯において経済的負担となっていることがわかり、低所得者層ではライフラインに関わるような深刻な影響も心配されます。

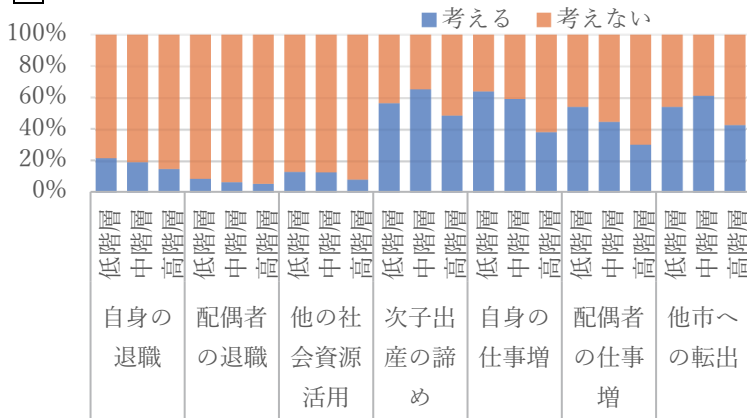
1 2021年度京都市の保育料と国基準の保育料

国基準				京都市				値上げ額		
階層区分	一人目	二人目	合計	階層区分	一人目	二人目 (はぐくみ額)	合計	一人目	二人目	合計
①生活保護世帯	0	0	0	1生活保護世帯	0	0	0	0	0	0
②世帯年収260万円 (市町村民税非課税世帯)	9,000	0	9,000	2市民税非課税世帯	0	0	0	9,000	0	9,000
市民税均等割のみ (課税世帯)				3市民税均等割のみ 課税世帯	4,600	1,700	6,300			
③世帯年収330万円 (所得割課税額 48,600円未満)	19,500	9,750	29,250	4市民税所得割課税額 34,999円以下	7,500	3,000	10,500	12,000	6,750	18,750
				535,000～41,999円以下	8,300	3,000	11,300	11,200	6,750	17,950
				642,000～48,599円以下	8,800	3,000	11,800	10,700	6,750	17,450
④世帯年収470万円 (同48,600～ 97,000円未満)	30,000	15,000	45,000	748,600～58,099円以下	15,600	6,100	21,700	14,400	8,900	23,300
				858,100～67,599円以下	20,000	7,100	27,100	10,000	7,900	17,900
				967,600～77,100円以下	24,700	8,900	33,600	5,300	6,100	11,400
				1077,101～86,999円以下	25,800	8,900	34,700	4,200	6,100	10,300
				1187,000～96,999円以下	27,000	8,900	35,900	3,000	6,100	9,100
⑤世帯年収640万円 (同97,000～ 169,000円未満)	44,500	22,250	66,750	1297,000～102,599円以下	28,200	8,900	37,100	16,300	13,350	29,650
				13102,600～110,899円以下	35,400	11,600	47,000	9,100	10,650	19,750
				14110,900～124,999円以下	36,600	11,600	48,200	7,900	10,650	18,550
				15125,000～138,599円以下	37,600	11,600	49,200	6,900	10,650	17,550
				16138,600～168,999円以下	44,500	14,400	58,900	0	7,850	7,850
⑥世帯年収930万円 (同169,000～ 301,000円未満)	61,000	30,500	91,500	17169,000～174,599円以下	51,300	14,400	65,700	9,700	16,100	25,800
				18174,600～211,200円以下	58,600	20,400	79,000	2,400	10,100	12,500
				19211,201～300,999円以下	60,700	20,400	81,100	300	10,100	10,400
⑦世帯年収1,130万円 (同301,000～ 397,000円未満)	80,000	40,000	120,000	20301,000～357,999円以下	69,900	21,400	91,300	10,100	18,600	28,700
				21358,000～396,999円以下	76,300	21,600	97,900	3,700	18,400	22,100
⑧年収1,130万円以上 (同397,000円以上)	104,000	52,000	156,000	22397,000円以上	91,000	27,100	118,100	13,000	24,900	37,900

2 保育料支出のために支払いができなかった経験

自身の趣味	79.1%
貯金	78.2%
配偶者の趣味	71.7%
家族の外出・外食	66.1%
子どもの費用	44.8%
家賃・水光熱費	25.9%
食費・医療費	24.2%

③ 保育料が1万円上がったときの対応



③ また、後1万円保育料が上がったらどうしますか？という質問に対しては、「次子の産産を諦める」が54%、「京都市より保育料の安い自治体への転出を考える」が48%となっており、京都市の少子化に一層の拍車がかかることは避けられません。

また低・中保育料階層では、自身もしくは配偶者の仕事を増やすと回答した人が半数を超えており、就労の長時間化、ひいては子どもの保育の長時間化が懸念され、子育て世帯におけるワークライフバランスの崩れとともに、保育職員の労働環境の悪化も懸念される場所です。また、低所得層では、自身もしくは配偶者の退職、すなわち保育施設の利用の断念と回答した人も2割程度おり、より一層の経済的困窮や子育て世帯の孤立化が危惧されます。

保護者は、適切な規模で、長く勤める保育士としっかりとコミュニケーションが取れる保育環境を望んでいる

④ 保護者は、保育施設を単なる預かり場所とは考えておらず、子どもたちの育ちの場として、給食も含む生活の場としての役割を重視しています。それに加え、保護者同士が繋がれて、子育ての相談ができる場所としても大事だと考えています。

⑤ 現在の保育環境について、子どもの定員別に保護者がどのように考えているのかを見てみると、園の定員が多くなるほど「子どもの人数に対する保育士数」「保護者とのコミュニケーション」「空間的ゆとり」などの項目において十分ではないと考えています。

保護者が望むのは、保育士が長年勤務でき、全保育士が全園児の顔と名前を把握できるような規模の施設であり、子どもの主体性を尊重する保育内容です。

④ 保護者が望む保育環境・内容

		とても そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	全く 思わない
保育環境	子どもの人数に保育士が十分である	18.2	20.1	37.7	23.9
	多様なニーズに対応している	8.2	13.3	51.3	27.2
	保護者とのコミュニケーションは十分である	22.0	49.7	24.5	3.8
	定員規模は適当	32.1	47.8	18.2	1.9
	クラスの人数は適当	26.0	47.3	21.2	5.5
	空間的ゆとりが十分	18.9	41.5	33.3	6.3
保育内容	保育士が長年勤務	69.0	26.6	3.8	0.6
	全保育士が全園児の顔と名前を把握	59.7	32.1	6.3	1.9
	小学校との接続スムーズ	13.2	46.5	34.6	5.7
	子どもの主体性を尊重	65.2	34.2		0.6
	全保育施設で職員・設備を同基準	62.2	30.1	5.8	1.9
	習い事の追加的実費徴収は負担である	34.6	37.7	16.4	11.3
社会的意義	適切な保育施設を選ぶ自信あり	17.0	51.6	28.9	2.5
	全ての子育てで家庭に保育施設は有用	73.0	21.3	4.4	1.3
	地域住民にとっても有用	65.4	24.5	8.8	1.3
	費用負担は社会で	44.7	37.1	16.4	1.9
	地域に公立保育園を	56.0	27.7	13.2	3.1

⑤ 保育園の定員×保育環境への不安

	保育士が十分		多様なニーズへの対応		保護者とのコミュニケーション		定員規模		クラス規模		空間的ゆとり	
	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり
50人未満	11.1	33.3	33.3	55.6	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3
50~100人	27.1	41.7	27.1	50.0	4.2	18.8	4.2	16.7	6.7	15.6	6.3	31.3
100~150人	21.7	34.9	27.7	49.4	4.8	25.3	1.2	18.1	5.3	24.0	7.2	31.3
150人以上	31.3	37.5	25.0	56.3	0.0	37.5	0.0	25.0	0.0	26.7	0.0	50.0

※各項目について現在の保育環境で十分かという質問について、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した人の割合

⑥ 子どもの年齢×保育環境への不安

	保育士が十分		多様なニーズへの対応		保護者とのコミュニケーション		定員規模		クラス規模		空間的ゆとり	
	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり	まったく	あまり
3歳未満	18.5	38.3	27.5	50.0	3.7	22.2	1.2	18.5	5.3	18.4	3.7	29.6
3歳以上	26.4	37.7	29.2	53.8	3.8	25.5	2.8	16.0	8.2	24.5	8.5	37.7

ないと考えており、これ以上、保育職員が減った場合、保育施設を安心して利用できなくなることが危惧されます。また、子育て対策ということで多くの保育園において定員以上の子どもを受け入れている現状にあり、そのため現在の保育環境は適切な人員や空間ではないと考えていることがわかりました。子どもたちの育ちの場にふさわしい、人員規模や空間的ゆとりが保障されることが必要です。

子どもたちにどのような社会を残すのか—今こそ大人の知恵を出し合ひましょう

今回の調査を通して、本当に今、保育料の値上げをしても良いのか？子どもに財政難の皺寄せを生じさせて良いのか？という意見が多く寄せられました。また、保育料の値上げ、保育環境の悪化によって、実際に多くの子育て世帯が次子を産むのを諦める、京都市外への転出を考えているなど、京都市から子どもが減っていくことも危惧されます。このような状況の中で、「子どもが大切にされていない」「子どもを産むことが歓迎されていない」と感じている声が多く寄せられました。本当に「子どもを大切にできる社会」とはどのようなものなのか、子どもたちにどのような社会を残すのか、今こそ多くの大人たちの知恵を出し合ひ、真剣に考える必要があります。